令和8年度　全国学力・学習状況調査

～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

令和８年度　全国学力・学習状況調査における石狩市の結果について

Ⅰ　調査概要

● 目的

（１）全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
（２）学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
（３）そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

● 実施日

教科に関する調査（中学校英語以外）令和８年４月２３日（木）
中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」令和８年４月２０日（月）～２３日（木）
「話すこと」令和８年４月２４日（金）、２７日（月）、
４月２８日（火）～5 月２９日（金）
児童質問調査　令和８年４月２４日（金）～5 月８日（金）
生徒質問調査　令和８年４月２０日（月）～２３日（木）

● 対象学年・人数

小学校、義務教育学校前期課程の第６学年～１０校　423 名で実施
中学校、義務教育学校後期課程の第３学年～　７校　413 名で実施

● 内容

小学校、義務教育学校前期課程・・・国語　算数　児童質問調査
中学校、義務教育学校後期課程・・・国語　数学　英語　生徒質問調査
小・中学校、義務教育学校・・・・・学校質問調査
※中学校英語は、IRT による経年比較を行うために問題の一部を非公開とし、公開問題と非公開問題を組み合わせた出題方法を採用

Ⅱ　本市の結果概要

● 教科の結果

	小学校		中学校	
	全国平均正答率	全国平均と比較	全国平均正答率	全国平均と比較
国語	60.9%	やや低い	63.9%	低い
算数 数学	56.4%	低い	57.0%	相当低い
英語	―	―	499	相当低い

石狩市における評語（正答率と比較）※中学校英語は 500 を基準とする IRT スコア

相当高い	７％以上	相当低い	－７％以下
高い	５％以上７％未満	低い	－５％以下－７％未満
やや高い	３％以上５％未満	やや低い	－３％以下－５％未満
ほぼ同様（上位）	１％以上３％未満	ほぼ同様（下位）	－１％以下－３％未満
同様	±１％未満		

● 児童・生徒質問調査の結果

【自分自身について】【人との関わりについて】【学習について】【家庭生活について】

☆ 改善傾向

（１）挑戦心、自己有用感等に関わる項目において、「将来の夢や目標を持っていますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学生は全国平均と同様で、中学生は若干上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。

（２）幸福感に関わる項目において、「学校へ行くのは楽しいですか」では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学生、中学生とも全国平均を若干下回っているものの、昨年と比べて増加傾向にあります。

（３）幸福感に関わる項目において、「友人関係に満足していますか」では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、中学生は全国平均を若干上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。

（４）基本的生活習慣に関わる項目において、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」では、「している」と回答した割合は、小学生、中学生とも全国平均を上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。

★ 課題傾向

（１）基本的生活習慣に関わる項目において、「朝食を毎日食べている」では、「している」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国平均を下回っています。

（２）学習習慣に関わる項目において、「学習の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」では、「1 時間以上」と回答した割合は、中学生は全国平均を大きく下回り、昨年と比べて減少傾向にあります。

（３）学習に対する興味・関心や授業の理解度に関わる項目のうち、「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業の内容はよく分かりますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、中学生は全国平均を大きく下回り、昨年と比べて減少傾向にあります。

● 学校質問調査の結果

多くの項目で小学校、中学校ともに肯定的な回答であり、全国・全道平均を上回っています。

以下、特徴的な結果です。

（１）全国学力・学習状況調査結果や地域の教育資源を活用する教育課程を編成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT の活用や対話活動など取り入れたり、他者と協力して学習課題を解決する活動を工夫したりと授業改善に取り組んでいます。

（２）小中連携の取組は全国・全道平均を大きく上回り、各中学校区で充実した内容が推進されています。

（３）家庭学習を推進するために、児童生徒が自分で取り組む内容や学び方を決めることができるように、家庭での学習方法を教えています。

Ⅲ 成果と課題

○ 成果

（１）小学校の国語は、正答率が全国平均に届かなかったものの、「読むこと」領域において、全道平均を上回り、全国平均とほぼ同様となりました。また、記述式問題の正答率は、全国平均を上回りました。中学校の国語は、正答率が昨年度より上昇し、全道平均とほぼ同様となり、全国平均に近づきました。各領域においても昨年度を上回りました。小学校、中学校ともに授業改善の取組の成果が見られます。

（２）小学校の算数は、正答率が全国平均よりやや低いですが、「測定」の領域が昨年度を上回りました。記述式問題の無解答率は、全国平均を下回りました。中学校の数学は、正答率が全国平均との差がありますが、昨年度より上昇しました。「数と式」「データ活用」の領域が昨年度より上昇しました。

（３）中学校の英語は、平均 IRT スコアにおいて、全国平均と差がありますが、公開問題において令和５年度と比較すると「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の領域が大きく上昇しました。

● 課題

（１）小学校、中学校の国語は、「書くこと」領域に課題があります。それぞれ全国平均を下回り、小学校は、昨年度よりも下降しています。

（２）小学校、中学校とも、算数・数学の正答率が全国平均を大きく下回っています。特に中学校は、相当低いという結果でした。領域別では、小学校は「図形」「変化と関係」、中学校は「図形」「関数」に課題があります。

（３）中学校の英語の平均 IRT スコアは全国より相当低く、IRT バンドは「２」が多い結果です。

Ⅳ 今後の改善策

● 子どもの主体的な学びを重視した授業改善の推進

（１）単元を見通して育成を目指す資質・能力（単元の目標）の明確化とそれに伴う評価規準（「知・技」「思・判・表」「主学態」）の設定

（２）系統性を押さえ、評価規準を踏まえた学習活動をバランスよく位置付ける単元計画の作成・実行

（３）ICT 機器を有効活用した指導の個別化と学びの質を高める対話活動の一体的な充実

（４）こどもの権利をベースにした学び合う人間関係づくり・学習集団づくりの推進

（５）小中の教育課程の接続を意識し、授業を学び合う取組の活性化

● 学校改善プランの組織的な策定と確実な実行

（１）各種調査結果を踏まえ、成果・課題・改善策を明確にした学校改善プランの組織的な見直し

（２）学校全体での目標と改善策の共通理解と共通実践

（３）学校改善プランに基づく取組の確実な進行管理

● 家庭・地域と一体となった取組の推進

（１）保護者や地域住民への調査結果や改善方策等の提示

（２）生活・学習習慣の改善に向けた児童生徒が自らの生活・学びを調整する力の育成

【用語説明】

IRT	項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。
IRTスコア	IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均500を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。
IRTバンド	IRTスコアを１～５の５段階に区切ったもので、平均バンドは３で、５が最も高いバンドとなる。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均３を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。
パーセンタイル	データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。小さい値から数えて、総数の1/4 番目に当たる値が第一四分位（25 パーセンタイル）、真ん中に当たる値が第二四分位（中央値、50 パーセンタイル）、3/4 番目に当たる値が第三四分位（75 パーセンタイル）となる。